

第153回鶴見大学図書館貴重書展「祈りとポエジー」

会期 2019年9月28日(土)～10月31日(金)

会場 鶴見大学図書館 1階エントランス *入場無料

講演会・ギャラリートーク 10月5日(土) 14時より(15時半終了予定)

会場 鶴見大学図書館 地下ホール *申し込み不要・入場無料 直接会場へお越しください

- ・「羊皮紙片に記された祈りの歌～鶴見大学図書館新収貴重資料から～」 西間木真(東京藝術大学音楽学部准教授)
- ・「英語の詩集にみるヨーロッパとその伝統」 菅野素子(本学文学部准教授)
- ・歌唱協力 鶴見大学附属中学校・高等学校アンサンブルクレイン部

開館時間 平日 8時50分～21時、土曜 8時50分～18時、日曜祝日 休館

10月14日(月祝)は授業実施のため通常開館(8時50分～21時)

学園祭期間中の10月20日(日)は展示のみ催行(10時～16時30分)

祈り、詩、歌一文字として紙面に記されながらも、あらかじめ声に出して読まれることを前提にしたテキストを集めて展示します。また、文字だけではなく、装飾や挿絵など美術的な意匠も楽しめる資料を集めました。見どころの一つ目は、羊皮紙にラテン語で書かれ、祈りと信仰の生活を支えた西洋中世の彩色写本です。本学図書館は中世の文献を継続して収集していますが、今回は東京藝術大学音楽学部の西間木真氏に新旧資料の調査をお願いしました。資料に関しては西間木先生作成の文書をご覧ください。二つ目は、17世紀から19世紀にかけて出版された英語の詩集です。英語の詩は韻律を持ち、同じ音やリズムを繰り返しますので、黙読よりも音読や暗誦を前提とした文学だと言えます。韻律があるために覚えやすいという側面もあります。以下に展示する詩集の一例をあげます。いずれも、英文学史上、名高い名作ばかりです。

- ・17世紀の詩人・文筆家ジョン・ミルトンの叙事詩『失楽園』(初版)
- ・イギリスでロマン派文学の先陣を切って抒情詩に新たな可能性を開いたウィリアム・ワーズワースとサミュエル・テイラー・コールリッジの『叙情民謡集』(初版)
- ・"I want a hero"の書き出しで有名なバイロン卿の『ドン・ファン』
- ・桂冠詩人(王室や国家的な行事にあたって詩を書く人物)アルフレッド・ロード・テニソンの処女詩集『詩集、主として抒情詩』(初版)
- ・ラファエル前派(日本ではラファエル前派の絵画に大変人気があり、たびたび展覧会が開かれています)の運動の中心的人物で詩人・芸術家のダンテとクリスティーナ・ロセッティ兄妹の詩集(初版)

鶴見大学図書館では、このほかにも、ヨーロッパ文化の歴史と伝統を伝える貴重な資料を多数所蔵しており、今回はその一端をお目にかけます。本学学生だけではなく、地元鶴見区の区民の皆さまにご覧いただき、本学図書資料を通じて、何らかの地域貢献ができれば幸いです。また、今回展示する楽譜資料について、10月5日の講演会では、鶴見大学附属中学校・高等学校のアンサンブルクレイン部の皆さんが実際に歌ってくださることになりました。鶴見中高大の連携にも、ご期待ください。(菅野素子)

鶴見大学図書館が所蔵する13点の西洋中世ラテン語写本の断片(零葉写本)のうち11点について、このほど調査を行なった。これら11点の断片は、聖書の『詩篇』もしくは何らかの典礼書に由来する。従ってそこに書き残されたテキストは、目で読み理解することを第一の目的としたものではなく、典礼という祈りの場で唱え、歌うことを目的としたものである。今回の調査では中世音楽写本研究の立場から、これら11点の羊皮紙断片がどのような典礼書に由来するのか、またそこに含まれる音楽レパートリーについて検討し、解題を作成した。これまでの調査で、少なくとも一つの資料に記された賛歌(イムヌス)の旋律は、おそらく従来の研究では知られていないものである可能性があることが明らかになった。今回の講演では、最新の調査結果を踏まえながらも、より親しみやすい形でヨーロッパ中世の祈りを記した美しい典礼写本の世界を紹介したい。(西間木真)

お問い合わせ先

鶴見大学図書館

神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3 電話 045-580-8274

アクセス

JR 京浜東北線 鶴見駅西口より徒歩10分

京浜急行線 京急鶴見駅より徒歩15分

学外の方は、入口で呼び出しボタンを押してご入館ください

